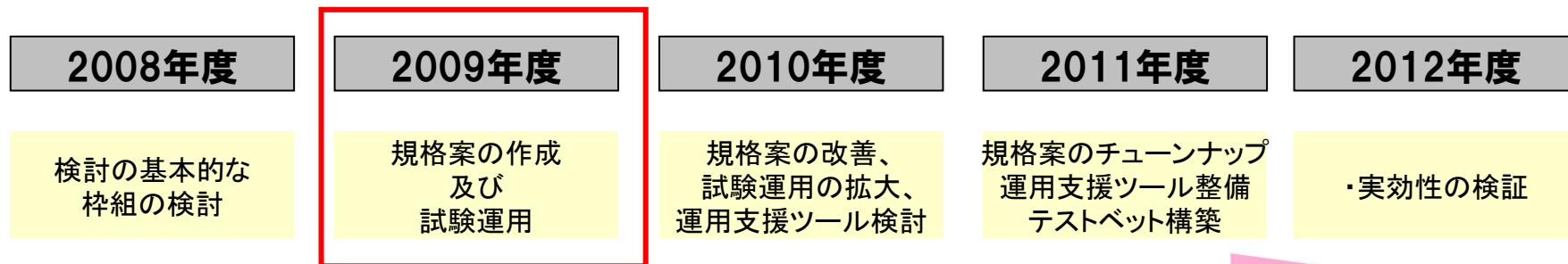


災害リスク情報の規格化に係る 今後の検討内容と検討体制 (素案)

災害リスク情報規格整備のロードマップ案

H21年度は、自然災害リスク情報の利活用を推進するための基礎となる規格案プロトタイプシステムの構築に必要な以下の課題を中心に活動を実施。

想定する概略スケジュール



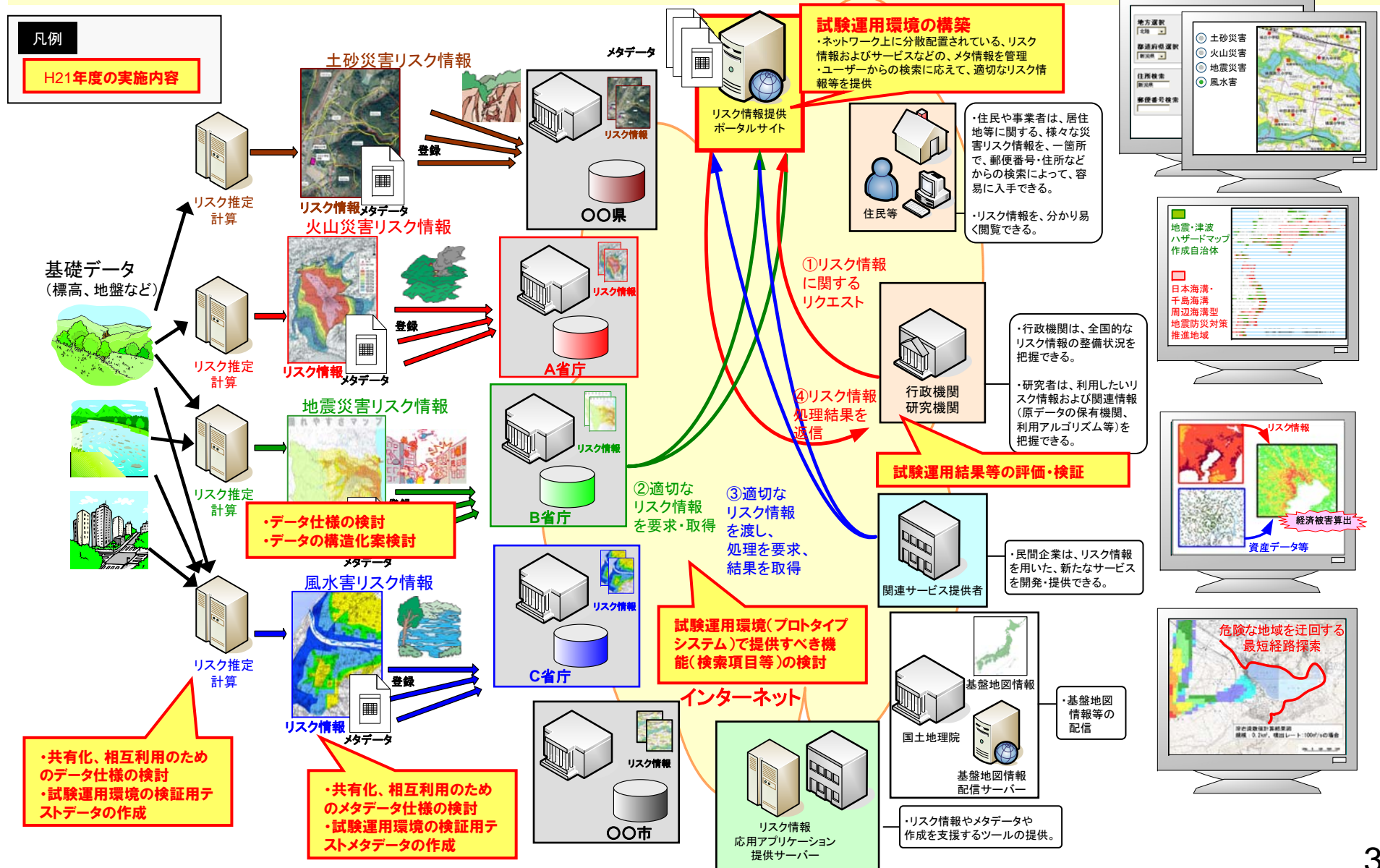
データ整備・データ更新等に係るルール、データ整備方策等については並行して検討

【H21年度の検討項目案】

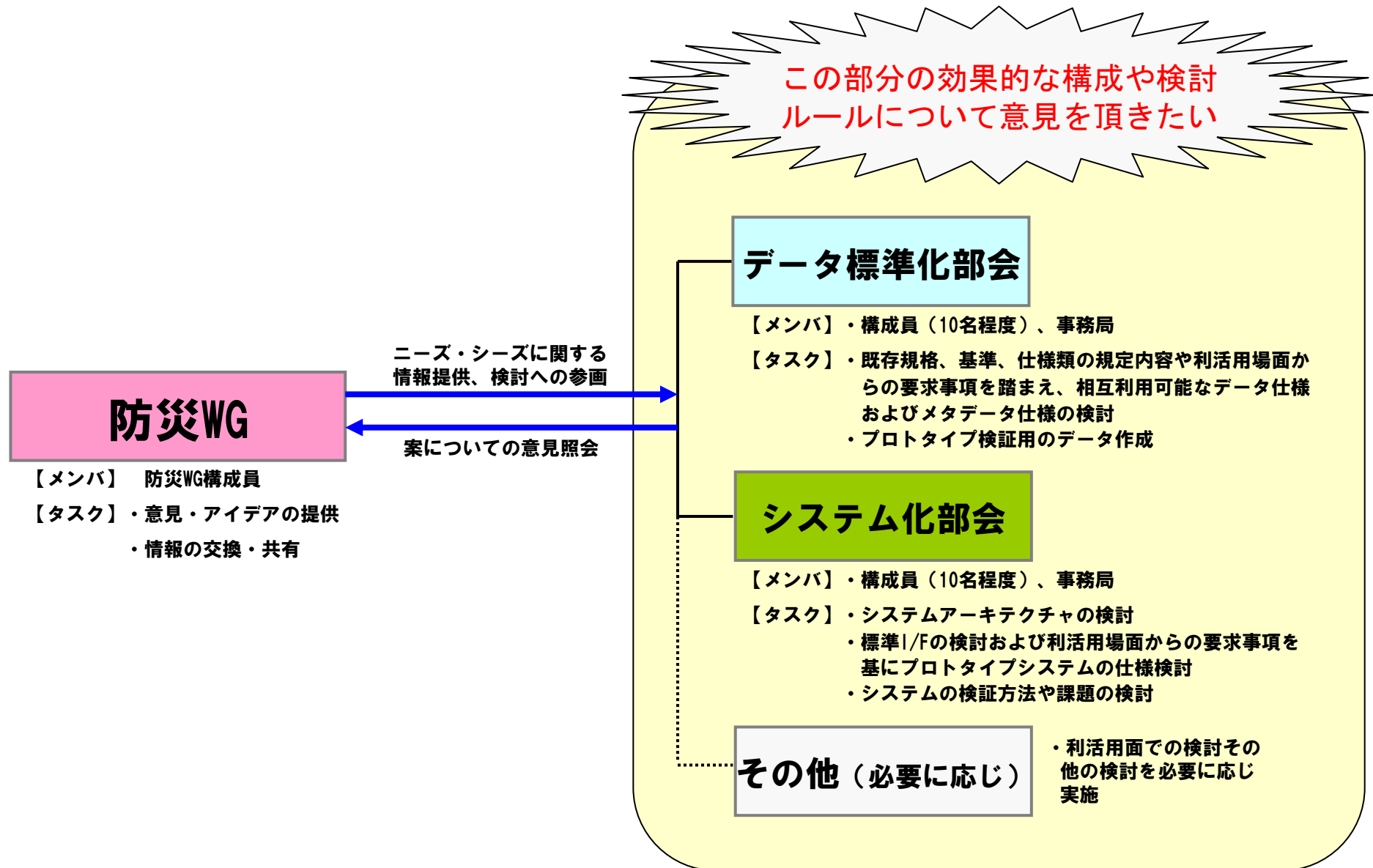
- **自然災害リスク情報の仕様(データ仕様およびメタデータ仕様)、およびシステムへの要求事項の検討**
 - － ターゲットとする利活用像の実現のために必要な仕様・要求事項の検討
 - － データの構造化案の作成、許容する選択肢の辞書化等
- **相互運用可能なデータ仕様およびメタデータ仕様の検討**
- **システムの構成(アーキテクチャー)の検討**
- **試験運用環境(プロトタイプシステム)の構築**
- **試験運用の際の検証用データや基本的ツールの収集又は作成**
- **試験運用結果等の評価・検証**

H21年度 災害リスク情報規格整備に係る主な検討項目案

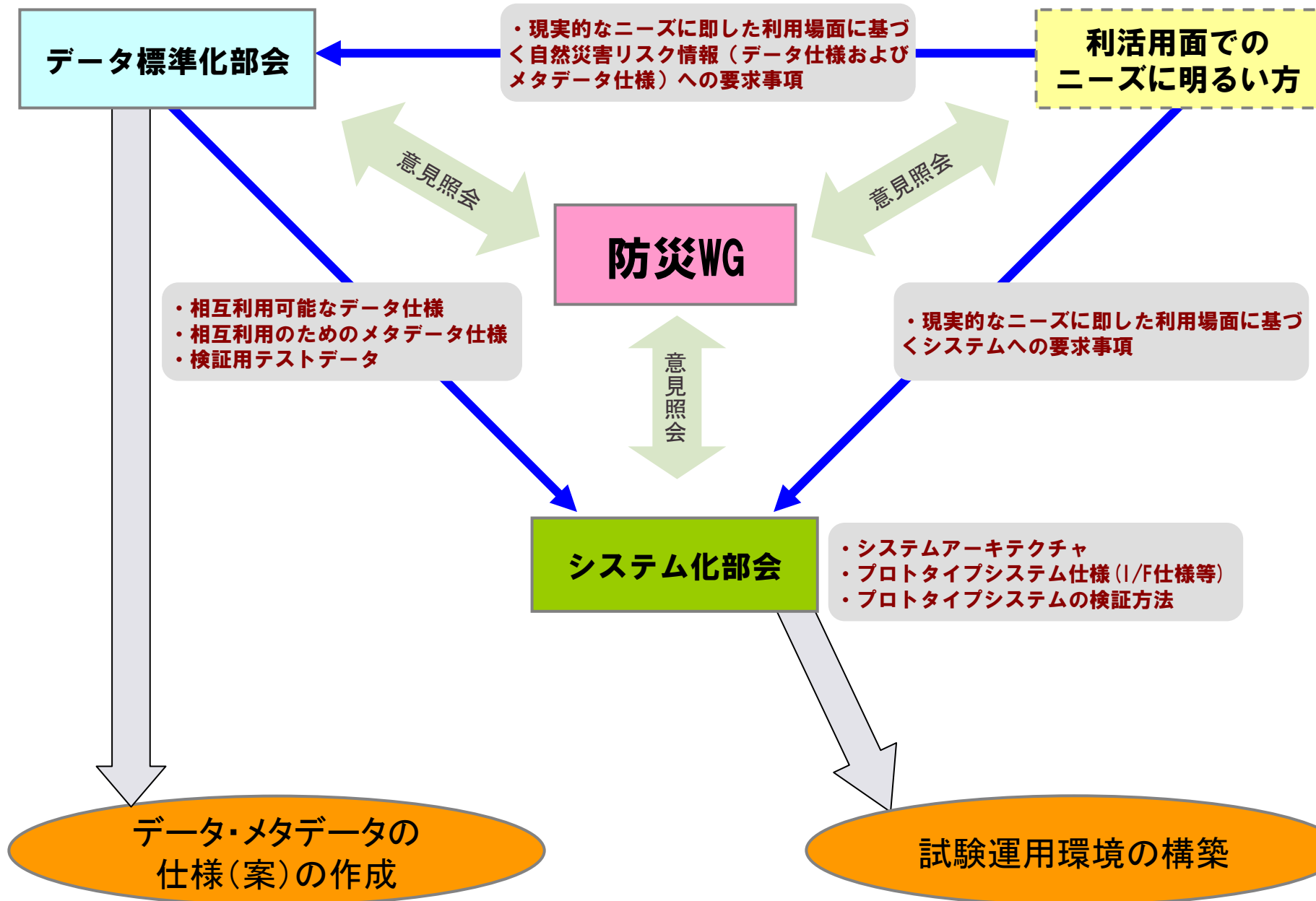
■主要課題：自然災害リスク情報の利活用を推進するための規格案の作成及び試験運用



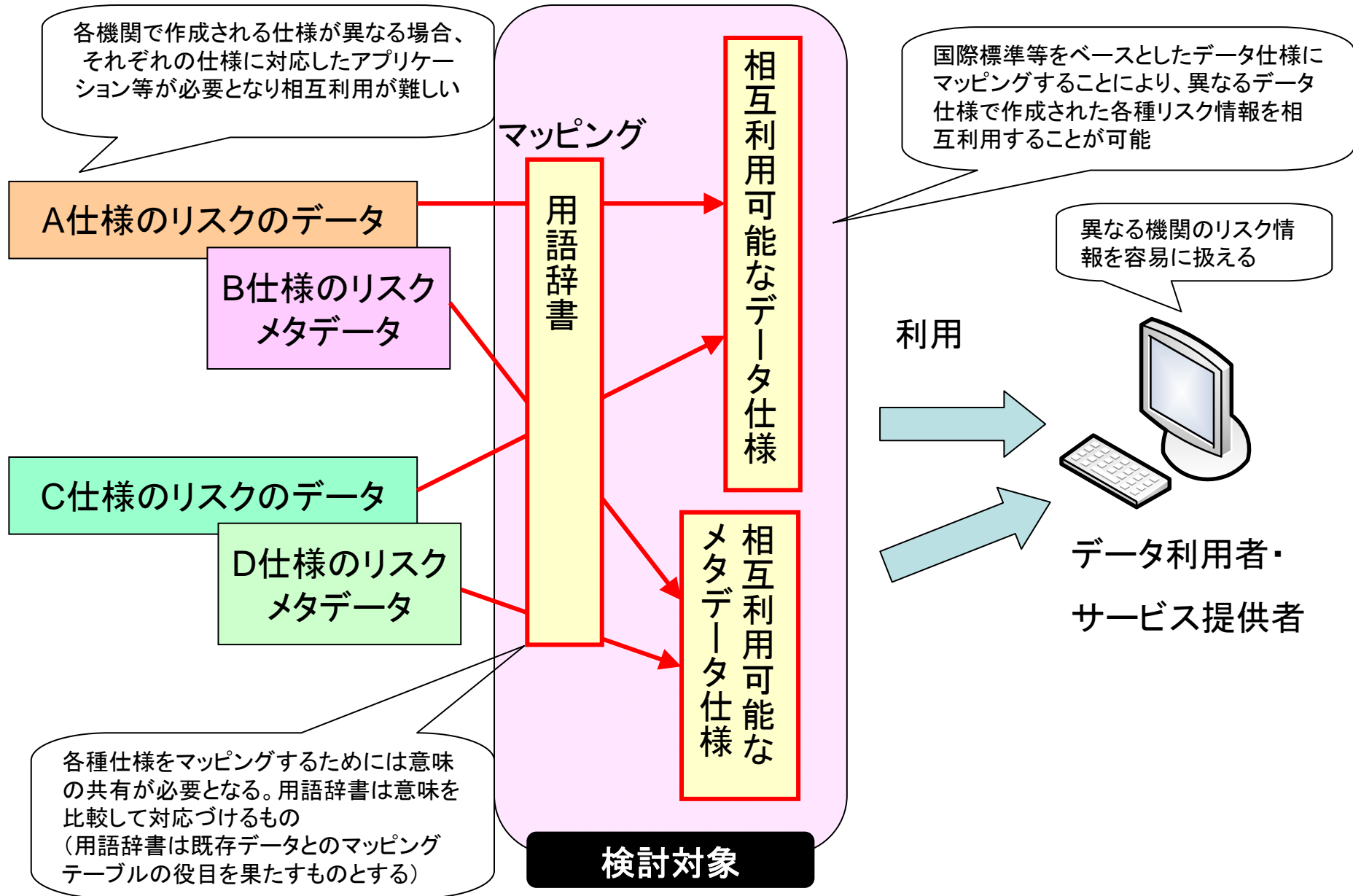
H21年度 活動体制(案) <組織構成>



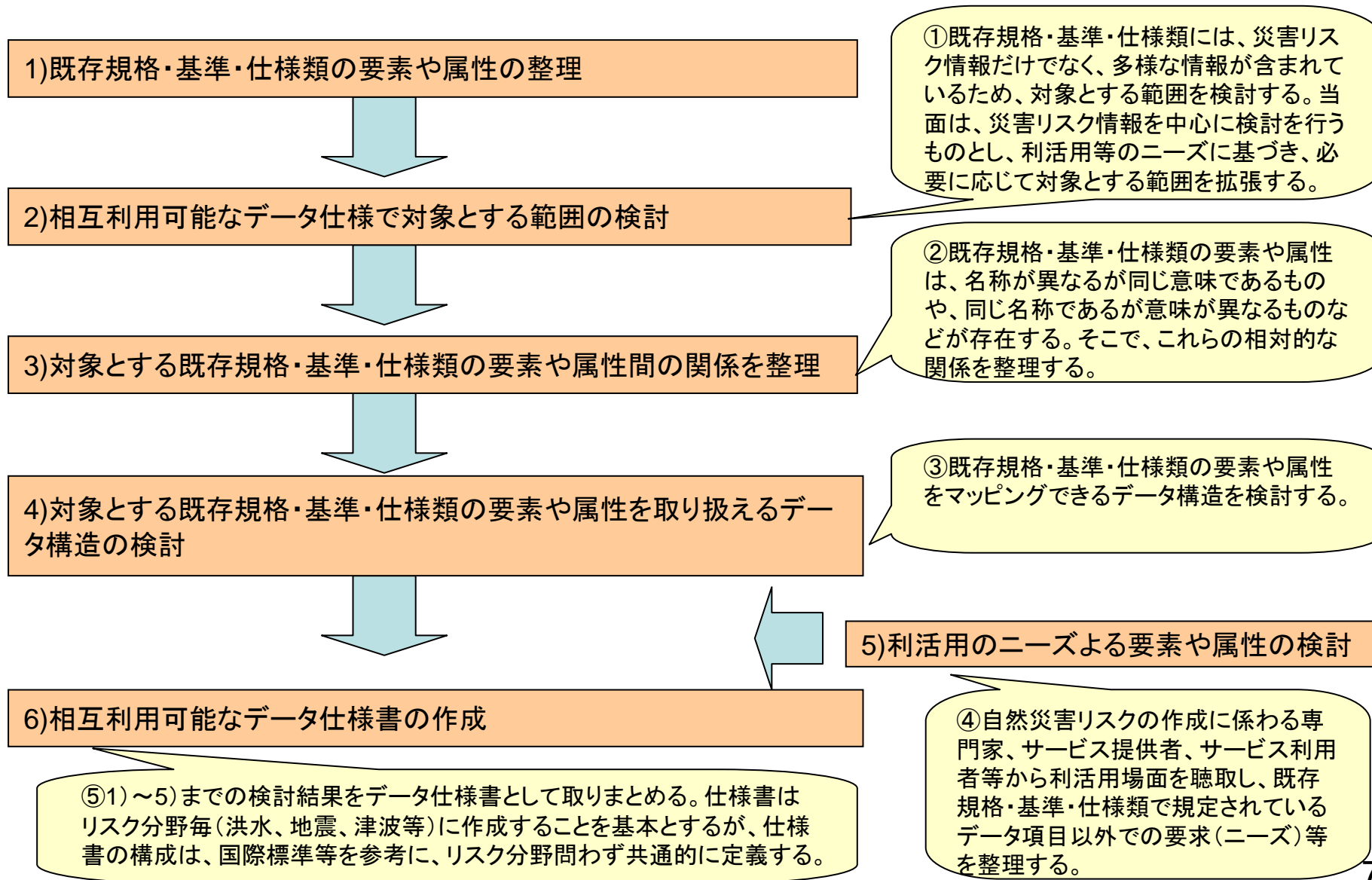
H21年度 活動体制(案) <部会間の関連>



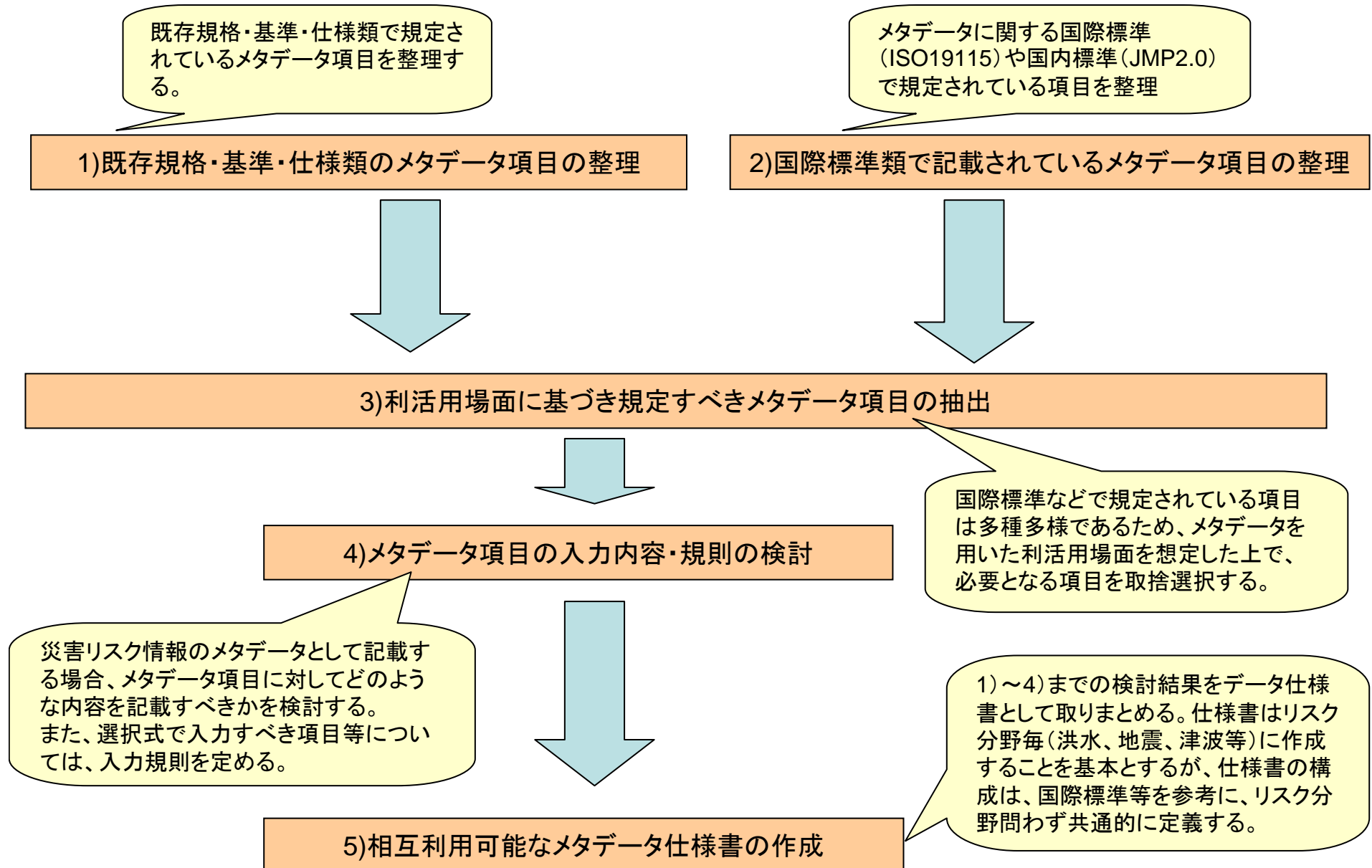
相互利用可能なデータ仕様・メタデータ仕様の検討



相互利用可能なデータ仕様の検討手順(案)



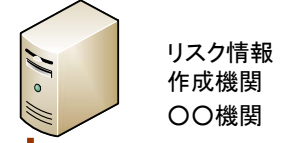
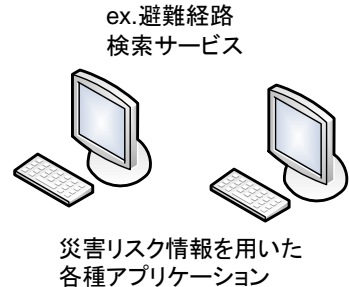
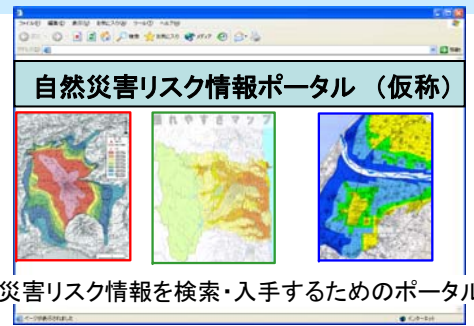
相互利用可能なメタデータ仕様の検討手順(案)



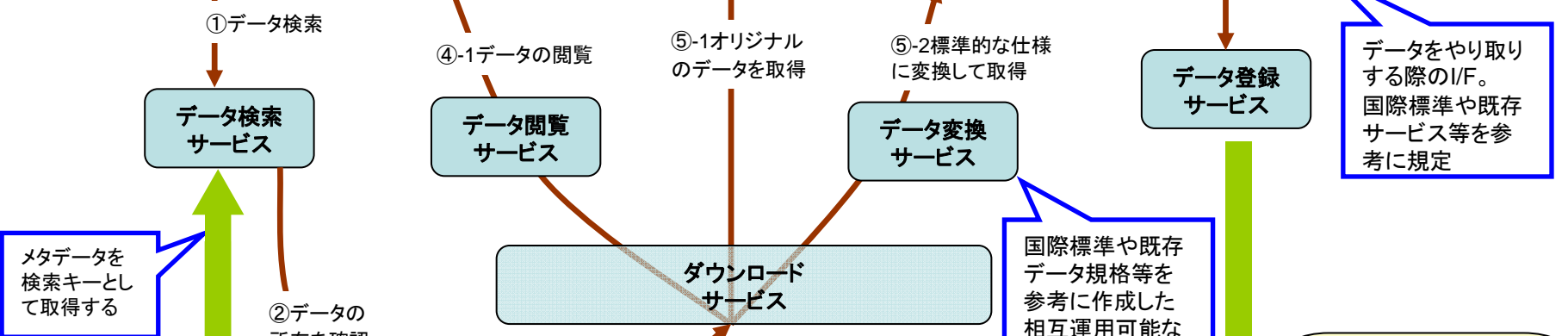
システムの構成(アーキテクチャ)のイメージ

システムアーキテクチャの検討は、最終的に目指すシステムをどのような機能単位とし、データ及びサービスをどのように管理すべきかを定めることである。具体的には、図に示すアプリケーションレイヤやサービスレイヤ、データレイヤを構成する各機能や保持すべきデータの構成等を検討する。

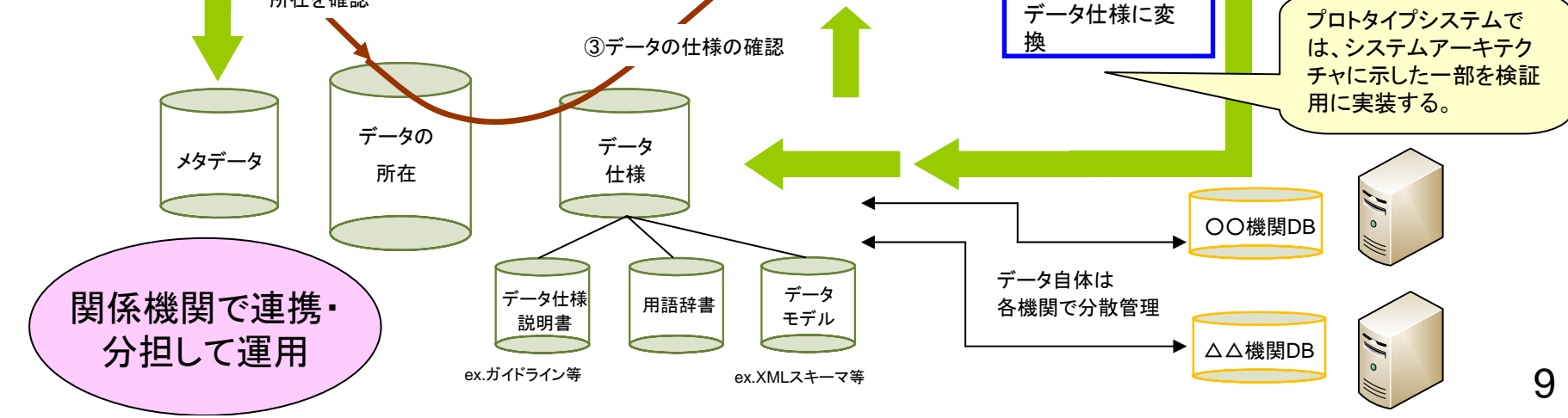
アプリケーションレイヤ



サービスレイヤ



データレイヤ



H21年度 活動概要案 (1)

No.	活動項目	作業内容	インプット情報	アウトプット情報	
3	「利活用部会」の検討	現実的なニーズに即した利用場面の検討	既存規格・基準・仕様類のデータ項目を基に利活用場面およびデータに係わる課題を整理する。更に、その他の利活用場面を検討し、既存規格・基準・仕様類のデータ項目で必要となるデータ項目を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 既存規格・基準・仕様類のデータ項目 	<ul style="list-style-type: none"> 利活用場面 利活用場面に必要となるデータ項目
	自然災害リスク情報への要求事項の検討	利活用場面および利活用場面に必要となるデータ項目を基に、自然災害リスク情報への要求事項として、データ項目、構成、精度、形式等を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 利活用場面 利活用場面に必要となるデータ項目 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害リスク情報への要求事項 	
	システムへの要求事項の検討	利活用場面および利活用場面に必要となるデータ項目を基に、システムへの要求事項として、データの検索方法や提供方法等を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 利活用場面 利活用場面に必要となるデータ項目 	<ul style="list-style-type: none"> システムへの要求事項 	
4	「データ標準化部会」の検討	相互利用可能なデータ仕様の検討	既存規格・基準・仕様類の要素や属性を整理し、相互利用可能なデータ仕様にて対象とする範囲を定める。次に、対象とする既存規格・基準・仕様類の要素や属性間の相対的な関係を整理する。この結果を基に、既存規格・基準・仕様類の要素や属性をマッピングできるデータ構造を検討する。更に、利活用面から既存規格・基準・仕様類で規定されている要素や属性以外の要求事項があれば、それらを加え、データ仕様書として取りまとめる。 上記の作業は、災害リスク情報毎に検討する。ただし、基本的な検討手順や仕様書の構成等は全体で共通的に定める。	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害リスク情報への要求事項 既存規格・基準・仕様類のデータ項目 データ仕様に関する国際標準類 	<ul style="list-style-type: none"> 相互利用可能なデータ仕様
	相互利用のためのメタデータ仕様の検討	既存規格・基準・仕様類のメタデータ項目や国際標準で定められているメタデータ項目を整理する。その上で、検索で必要となるキーワード等、メタデータの利活用場面を検討した上で、相互利用するために対象とすべきメタデータ項目を規定する。更に、個々のメタデータ項目については、入力すべき内容(選択式での入力等)を検討する。これらの結果をメタデータ仕様書として取りまとめる。 上記の作業は、災害リスク情報毎に検討する。ただし、基本的な検討手順や仕様書の構成等は全体で共通的に定める。	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害リスク情報への要求事項 既存規格・基準・仕様類のデータ項目 システムへの要求事項 既存のメタデータ仕様 メタデータ仕様に関する国際標準類 	<ul style="list-style-type: none"> 相互利用のためのメタデータ仕様 	
	検証用テストデータの作成	H21年度に構築するプロトタイプシステムの検証に用いる検証用テストデータを前述したデータ仕様およびメタデータ仕様に基づき作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 相互利用可能なデータ仕様 相互利用のためのメタデータ仕様 プロトタイプシステムの検証方法 	<ul style="list-style-type: none"> 検証用データ 検証用メタデータ 	

H21年度 活動概要案 (2)

No.	活動項目	作業内容	インプット情報	アウトプット情報	
5	「システム化部会」の検討	システムアーキテクチャの検討	システムへの要求事項、国内外の先行事例 (INSPIRE 等)、国際標準類を参考に最終的に目指すシステムをどのような機能単位 (データ検索、データ閲覧、データ変換、ダウンロード等の機能) とし、データならびにサービスをどのように管理すべきかを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> システムへの要求事項 国内外の先行事例 (INSPIRE 等) 国際標準類 	システムアーキテクチャ
		プロトタイプシステム仕様検討	システムアーキテクチャは最終的な理想像を前提に機能要件を定めることになるため、プロトタイプシステムではその一部のみを実装することになる。実装する部分については、システムアーキテクチャの検討において作成する機能要件に基づき、仕様を具体化する。	<ul style="list-style-type: none"> システムアーキテクチャ 	プロトタイプシステム仕様
		プロトタイプシステムの検証方法	プロトタイプシステムを防災 WG の構成員等に利用していただき、使い勝手等 (検索項目として不足する内容、操作性が悪い部分等) を検証する。そこで、検証手順や検証項目 (調査項目等) 等を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> プロトタイプシステム仕様 	プロトタイプシステムの検証方法
6	プロトタイプシステム構築・検証	プロトタイプシステム構築	プロトタイプシステム仕様に基づきプロトタイプシステムを構築する。構築にあたっては、既存の資産や環境を活用することに留意する。	<ul style="list-style-type: none"> プロトタイプシステム仕様 	プロトタイプシステム
		システムの検証	プロトタイプシステムの検証方法に基づき、効果や課題を確認するための検証を行う。ここでの検討結果は、データ仕様、メタデータ仕様、およびシステムアーキテクチャの検討にフィードバックする。	<ul style="list-style-type: none"> プロトタイプシステムの検証方法 	プロトタイプシステムの効果・課題